

牧師、バイカー、鮫職人として。。。シェア from LA 第57話 ロン追悼 ①「場末のバーで説教」

ロンの死から1年がたったある日、道子さんが「ミッキーさん、カレのメモリアル1周年記念のパーティーをしたいんだけど、説教やってくれる？」と聞いてきた。どこでやるのか尋ねると、「彼の行きつけのバーでやりたいのよ」。どんなバーだか尋ねたら、「それが小汚なくて安っぽい所なの。」と来た。「ゲッ」。アメリカのバーは押しなべてAC/DCとかディーブパープルとかがジャカジャカかかってうるさい。ハードロックは好きだがバーでかかっているのはアカン。落ち着かない。そういうバーはたいてい典型的な場末のバーで薄暗くトイレも臭い。

「え～」と嫌な顔したら、「ねえ、ミッキーさんしかいないのよお。お願い。彼が毎週のように通ってたバーなの。みんな彼のことを知ってる場所だからここが一番なの。ねえ、ダメ??」だとさ。不良牧師だからか、こんな依頼ばっか。「よし！そこまで言うなら俺の好きにさせてもらおう！俺はJESUSのことしか話さないからな。それでもいいか？」と聞くと、「え！やってくれるの！もちろんよ～！」などと気楽な返事。

ともかく引き受け、記念日にバーに行ってみると、やはり暗い、うるさい、汚い場所だ。汚いのはいいとして、暗くて皆の顔もろくに見えないし、大声で説教しても聞こえない。すでに飲んでる人もいる。などと思い巡らしていると、聖霊に示され「記念写真を撮ろう」と道子さんに言ったところ、ちょうどまい具合に従業員用の裏口がバーカウンター横にあり、そこからロンとゆかりのある人たちがそろそろと30人ほど外へ出た。「ここで説教すればいい」と示され、記念撮影を済ませた後、全員で円陣を組んでから説教に入った。

数名の日本人を含めアジア人や白人、ラテン系など色々いる。クリスチャン、カトリック、不可知論者や無神論の人、何と天理教の人もいた。しかし、「ロンの死から学ぶべきことは多い。人間は死んで終わりではない。裁きが待っている。でも、その裁きが行使されないようにしてくれたのが十字架にかかったキリスト・イエスですよ。ロンはイエスを信じたので裁きや地獄を恐れることはない。私たちもロンに続こう」と福音をまっすぐに語り、最後に全員で手を繋いで祈った。神を信じない者も頭を垂れ、神妙な顔つきで祈りに加わるのを見て、

「地の果て果てもみな、思い起こし、主に帰って来るでしょう。」

また、国々の民もみな、あなたの御前で伏し拝みましょう。」 詩篇22篇27節

という聖書の言葉を思い出し、改めて全知全能の神による支配に感嘆した。しかし、道子さんは又しても「本当にありがとう！」などと喜んでくれたものの、その後も私の教会に来ることはなかった。ほどなくして私はその店を辞し、それ以来彼女とは会っていない。だが、一連の不思議な出来事を通し大いに学ぶことが出来た。種蒔きは出来た。今も彼女らの救いを祈っている。

10-27-2021



